

「相中相高百年史」より
(昭和初期の相馬中学校 2)

昭和3年の『学友会雑誌』25号に、前第二師団長井上一次中将の講演記事が掲載されている。その講演では、明治以来のわが国の発展をかえりみながら、アジアの盟主たらしとする日本の立場と、当時の時局や国民的課題について述べており、学徒・国民の奮起をうながしている。当時の相中生は、このような講演を聴き、若い血潮をたぎらせていたのである。(以下にその一部を転載する)

2 講演「国力の増進に就いて」

諸君、私は一日も帝国の前途を忘るることは出来ない。今日此の話を承諾したのも斯かる主旨からである。茲に集合せられたる諸君の元気な姿を見、諸君が帝国の前途を負担するに充分なるを信じ欣喜に堪えない。本日は、聊か国力の増進に就いて御話したいと思う。扨て、世界に於ける日本帝国の現在の地位を私共の子供時代と比較して考えると、駭々乎として進んでいることを直覚的に感ぜざるを得ぬ。私は明治六年、即ち日本の学制発布の翌年に生まれたのである。其後陸軍に入り、明治二十七年士官学校在学の時日清戦争が起ったのである。(中略)

当時、日本の人口は三千五百万余であつたが、今は七千万余の人口で二倍となっている。日本の財政は当時七千余万円で、今は十六億円であるから、二十倍となっている。斯う云う情態であつたから、日本が清国と戦うと云うことは、実際世界を驚かした。当時、世界は日本を清国の属国であると考えて居たものも少なくなかつた。日清戦争当時、清国には定遠、鎮遠、威遠などの七千噸級の戦闘艦があつた。日本には、松島、橋立、厳島等四千噸内外の海防艦が主なものであつたから、世界各国は日本の勝利を疑つたのも無理はない。(中略)

其後十年、即ち明治三十七年に日露開戦。世界は露国の強勢な海軍に對し、日本陸海軍ではどうしても勝利は得られない。白色人種の露国には勝てまいと考へて居たのである。然るに日露戦争も亦連戦連勝で、遂に我国は奉天の大会戦に大勝を得た。……

……

……

日清、日露の戦後、欧州大戦に於て、日本は立派な軍国であり、日本人は立派な軍人であることを尊敬すると共に大なる恐れを抱いて居る。英国の新嘉坡(シンガポール)に於ける大軍港の設置がそれである。…(中略)…一方、米国の布哇(ハワイ)に於ける大海軍根拠地の設備と、巴奈馬(パナマ)運河防備の増大も亦、同一主旨からである。……

……

……

……「世界には支那の萬里の長城の様な如きものは無い」「支那に於ては支配者が變つても曾て支那の文化は亡びない」と答へている。彼の支那人でさへ自國に對して斯かる大なる誇りを持っている。

然らば日本の誇りは何であるかと言え、国体の尊厳である。私は外国に居って故国を見ると、土地は大きくなく資源は少ない。大いに意を強ふするのは、二千五百有余年皇室を中心として活動し来った歴史である。西洋人が帝国民に對し、最も敬服し最も恐怖しているのも此の為である。吾々は此の国体の精華を彌が上にも磨いて、益々其の光輝を發揮せねばならない。

次に外国の経済力と我国のものを比べて見ると、遺憾ながら甚だ不十分である。各種の統計を見れば、日本の生産業其他色々の点に於て不十分なる事は争はれない。富力に於て世界に冠たる米国を見るに、米国人が常に自慢するナイヤガラニヤガラの瀧とフォードの自動車会社とフィラデルフィア市の造船所であるが、ナイヤガラニヤガラの瀧は実に大きく、日光の華嚴くわげんの瀧の数十倍もあり、フォードの自動車会社は、五年前私の米国にありし際は一日千二百台の自動車を作つて居つたが、現今は一日三千台も出来るとの事である。当中村町には何台の自動車があるか知らないが、実に驚かざるを得ない。フィラデルフィアの造船所は自動車自動車で案内して呉れるが、一萬噸以上の船を造る船台が七十五もある。日本の川崎、三菱等の造船所は大きいものであるが、僅かに三、四台の船渠があるに過ぎない。是を以て見ても、米国の経済力の大なる事が解る。経済力と云ふのも資源が本であるが、米国では日が麥畑から出て麥畑に入る所もある。随つて農産物も之に準じて多い。石炭の如きも鉄の如きも誠に多い。

我が日本には是等の資源に乏しいが、常に日本の旁には支那、シベリアの如き潤沢なる資源地を有しているから、之を利用し開発を図り製作したならば、敢て憂するに足らない。日本には人口が多いから、人の努力は経済力に大影響を及ぼすのである。即ち吾々は勤勉努力と共に消費節約を謀り、富の増殖をなさねばならぬ。(中略)

.....

.....世界大戦の時、各国共平時軍備の数倍の兵力を編成したが、一例を挙げれば、米国に於ては平時十七萬五千人の常備兵であつたのを、四百万の大軍に動員を行ふた。我国の学校教練、青年訓練は直接に軍事の予備教育ではないが、身心を鍛鍊しておけば、何時でも大兵団が編成され、国防能力を増すことが出来るのである。斯かる主旨を真に理解して、国防能力の下らぬ様に努めて貰ひたいと思うのである。(中略)

諸君は日本を負担する強い決心で、この三点に関し修養努力せられんことを切に望むのである。当中村町は旧藩時代に於て已に此三点に着眼せられ、国民精神の涵養、経済力の増進に就いて二宮尊徳翁の教に依り種々の改革をされた。当地方の気風習慣が依然として良好な成績を挙げて居らるるのも、其結果であると大に敬服している次第である。私が先般薰陶園を拝見し、各施設が行はれ、民心作興の基を作つて居らるることを認めたのである。武力の養成に於ても昔時野馬追のまづを実行せられ、治に居て乱を忘れざる覚悟を養成せられた。

今後に於ても旧藩時代より行はれた、三点を尊重せられ、各地方に對して模範とならんことを望むのである。是が為には其地位職分に對する努力が必要である。学生は学業に奮励すべく、在郷軍人は国民の中堅たるの実を挙げべく、各種の機関を挙げて大なる活動をなし、一致協力、当中村町をして独り福島県のみならず、日本の模範町たらしめん事を切望して已まない次第である。

(1月25日 選択転記 村山)